

TAKE FREE

介護を応援する情報誌〔タウンカイゴ・トーキョー〕

TOWN 介護 TOKYO

12

Dec.2020

介護のこと新発見。
地域密着、
この街と共に。



TAKE FREE

介護を応援する情報誌〔カイゴタイムズ・トーキョー〕

介護 TOKYO Times

12

Dec.2020

介護のこと新発見。
地域密着、
この街と共に。

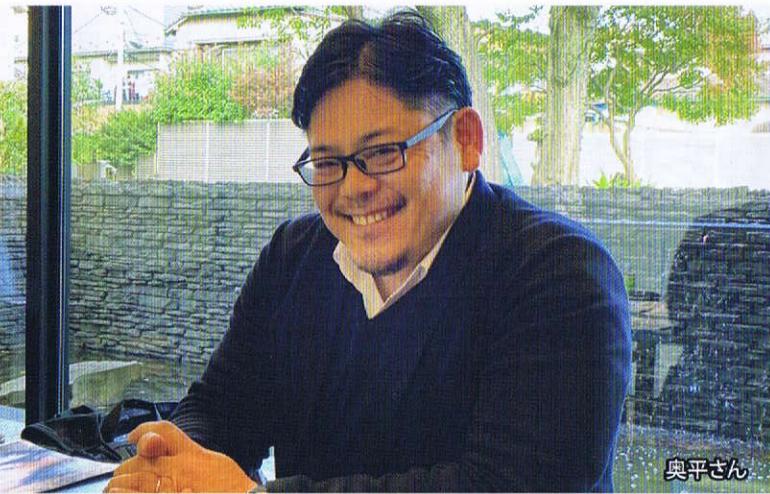


100人の介護専門家を育てるより、1000人の介護経験者を作り出す！

介護現場で働きながら、自分の力で進学する新しい奨学金制度

株式会社介護コネクション代表取締役／ミライ道場代表

奥平幹也さん



奥平さん

「ミライ道場」は、経済的な理由で進学が困難な学生たちが、介護施設で働きながら、「自分の力で進学する」自立支援プログラムだ。自身も新聞奨学生だった奥平幹也代表が、学校や受け入れ先を開拓して、ゼロから築いてきた「ミライ道場」の多くのメリットをもつと多くの学生、介護事業所に知つてほしい。

施設で働きながら学費返済
介護経験をキャリアアップに生かす

2014年度に1名からスタートしたミライ道場は、これまでに46名を受け入れてきた。奥平さんの出身地である沖縄県と首都圏の出身者が大半で、特養、

有料老人ホーム、サ高住などの施設で働きながら(保育モデルもあり)、専門学校や大学、大学院に進学した。私財を投じてゼロからこのプログラムを立ち上げた奥平さんが、高校を1校1校自分の足で走り、受け入れ事業所を開拓して、一人一人の学生の相談に乗つて、橋渡しをした結果だ。

「学業に支障がないようになるべく少ない時間で高収入を得たい学生」と「人手不足に苦労している介護事業所」とのマッチング。それは、奥平さんが「自分も新聞奨学生だったこと」と「不動産コンサルティング会社に就職してから、介護施設に投資をする投資家と多くの施設を見る機会を得たこと」から生まれた、奥平さんだからこそ閃いた発想だった。



1期生の佐々木さん(左)

「いろいろな施設を見学しているうちに、立派な建物ではないけどスタッフも入居者も生き生きしている施設もあれば、その逆がありました」と、介護現場に目を向けるようになつた。高齢化社会を迎える今後はいろいろな業界が介護の周辺に参入していくのもわかつていて。」

「学生たちが介護を経験することは、プラスの価値をもつて卒業することになります。『ミライ道場』は貧困学生のための進学支援ではありません。超高齢社会で活躍するためには、介護の経験は必ず役立ちます」。

介護業界の目先の人材確保よりも、むしろ多様な業界に「介護の視点」をもつ人材が散らばっていくことを奥平さんは見据えている。

「週2回の程度の夜勤」で、あとは学業専念学校面・生活面・仕事面をサポート

大学卒業が生涯の安定を約束するものではなくなり、超高齢社会の中、家庭環境も大きく変化してきた。親は親の介護をし、自分達の老後の資金の不安を抱え、子供の学費の負担も困難に。進学希望の高校生はますます不利に。

そのため、多くの学生が日本学生支援機構の奨学金を頼り、2・5人に1人が奨学金を利用している。だが、月に10万円借りれば、4年間で480万円十利息の借金を背負つての社会人スタートになる。

一方、ミライ道場で介護事業所から借入した学費は、毎月の給与から天引きされ、在中の返済を目指す。無理のないように、奥平さんが個別に返済シミュレーションも作成をしている。もう一つのメリットは貸付時期。合格後、入学前に100万円近くの支払限に貸付が間に合うように、試験前から法人面接などを踏まえて、段取りをしている。

働き方と給料のイメージだが、仮にフル夜勤(土日を利用した研修後)を週2回、月8回シフトするとして、1夜勤2万円とす

ると月16万円になる。自宅通学生なら、生活費分を考慮しても、相当な額を学費返済に充てることができる。居酒屋等で週に何日も夜遅くまでバイトをするよりも、学業やサークルなどにも時間が取れる。

「しかも職場は、安全性、室温等も含め快適な環境ですからね(笑)」。

「いよいよ、在学中は学校面・生活面・仕事面にわたつてサポートしていきます」。奥平さんだけでなく、介護の専門家や道場卒業生がサポートとして学生たちを支えている。

「進学支援」と「人材育成」の協力はいかに介護の世界に還元される

「ぼくは新聞奨学生だったので、朝3時に起きて朝刊を配り、夕方3時から夕刊を配り、その後、集金もして、他に内緒でラーメン屋で出前のバイトもしていたので、睡眠時間は1日3時間くらいでした。でも、そのうち昼間もバイトに行って学校をさぼるようになり、結局2年留年。『自力進学の奨学金制度あるある』で、学校をさぼつても誰も止めない。その反省も踏まえて、ミライ道場では、生活が乱れたり、学校へ行かなくなることのな

いがあるが、一般的な奨学金制度ではこの支払いに対応できない。それが理由で入学を断念しないように、ミライ道場では納付期限に貸付が間に合うように、試験前から法人面接などを踏まえて、段取りをしている。

また、学生たちが介護経験に誇りを持つためにも、「私も含めて介護業界で働く介護職は、介護の高いスキルに対し、それだけの対価(自費)を望むことと請求する勇気を持たなければならぬ」という。

奥平さんの言いたいこと、やりたいことはまだまだ山ほどあるが、まずはこの自立支援プログラムを事業化のために奔走する毎日だ。ここまでの人生を「気合いで乗り切つてきました!」といつ奥平さんの目下の悩み



ライター 谷口のりこ



は、その“気合い”だけでは通用しないことがあつたり、「ほかの人に仕事を頼むのが苦手なこと」。今後ますます大きなプロジェクトになるためには、奥平さんの頑張りだけでは手が足りない。多くの人々の理解と協力が必要になってくる。

「進学支援」と「人材育成」を両輪としているミライ道場。これまでに多くの学生たちが介護の経験を自分のやりたいことに繋げている。今回は紹介できなかつたが、ミライ道場の奨学金制度を利用して、いる学生の頑張りと卒業生の活躍を、今後も紹介していく予定だ。

ミライ道場の学生さん達は、覚悟を持つて入つて来ます。現場がしっかりと育て、介護の面白さを伝えることが出来れば介護業界に進路変更する学生さんも出てくると思いませんか?」

また、学生たちが介護経験に誇りを持つためにも、「私も含めて介護業界で働く介護職は、介護の高いスキルに対し、それだけの対価(自費)を望むことと請求する勇気を持たなければならぬ」という。

奥平さんの言いたいこと、やりたいことはまだまだ山ほどあるが、まずはこの自立支援プログラムを事業化のために奔走する毎日だ。ここまでの人生を「気合いで乗り切つてきました!」といつ奥平さんの目下の悩み